

再評価結果（令和2年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：奥村 康博

事業名	地域高規格道路 常総・宇都宮東部連絡道路 一般国道 408 号 真岡～宇都宮バイパス	事業区分	補助国道	事業主体	栃木県	
起終点	自：栃木県真岡市下籠谷 至：栃木県宇都宮市氷室町			延長	5.2km	
事業概要						
一般国道 408 号真岡～宇都宮バイパスは、地域高規格道路「常総・宇都宮東部連絡道路」の一部を構成する道路であり、交通渋滞緩和、北関東自動車道真岡 IC へのアクセス強化、鬼怒川左岸工業団地群の産業支援を目的とし、真岡市下籠谷～宇都宮市氷室町までの延長 5.2km を整備するものである。						
H15 年度事業化		H3 年度都市計画決定		H15 年度用地着手		
H16 年度工事着手						
全体事業費	約 205 億円	事業進捗率	約 83%	供用済延長	5.2km	
計画交通量	34,700 台/日					
費用対効果 分析結果	B/C	総費用	(残事業)/(事業全体)	総便益	(残事業)/(事業全体)	基準年
	(事業全体) 3.3	33 / 274 億円		91 / 900 億円		令和元年
	(残事業) 2.8	事業費：28/269 億円 維持管理費：4.4/4.4 億円		走行時間短縮便益：73/817 億円 走行経費減少便益：13/53 億円 交通事故減少便益：5.6/29 億円		
感度分析の結果						
(事業全体) 交通量 : B/C=3.0~3.6 (交通量 ±10%) (残事業) 交通量 : B/C=2.5~3.1 (交通量 ±10%)						
事業費 : B/C=3.3~3.3 (事業費 ±10%) 事業費 : B/C=2.6~3.1 (事業費 ±10%)						
事業期間 : B/C=3.1~3.4 (事業期間 ±20%) 事業期間 : B/C=2.7~2.9 (事業期間 ±20%)						
事業の効果等						
①広域交通ネットワークの形成 地域高規格道路として、整備済みの真岡バイパス、真岡北バイパスと一体となって、北関東自動車道真岡 IC のへのアクセス強化を図ることにより、県域を越えた連携・交流の促進や周辺工業団地の物流の効率化が見込まれる。						
②交通混雑の緩和 並行する国道 408 号から真岡宇都宮バイパスへ交通転換するため、交通混雑の緩和や旅行速度の向上が期待される。						
③生活環境の改善 自動車の走行性向上による環境への影響低減 (CO2, NO2, SPM 削減)						
関係する地方公共団体等の意見						
宇都宮市、真岡市、高根沢町の 2 市 1 町による常総・宇都宮東部連絡道路・鬼怒テクノ通り整備促進期成同盟会より、建設促進が要望されている 栃木県重点戦略「とちぎ元気発信プラン」においてスカイコリドールに位置づけられている						
事業評価監視委員会の意見						
栃木県公共事業評価委員会において審議の結果、事業の継続を妥当とする						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
・平成 25 年 12 月に暫定 2 車線で全線供用 ・令和元年 5 月に宇都宮高根沢バイパスの一部区間を除き暫定二車線で供用開始						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
用地取得率 100%、事業進捗率 83%						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
国道 123 号との交差点の立体交差化を推進していく						

施設の構造や工法の変更等

- ・ 橋梁の床版には耐久性維持管理に優れた合成床版を採用
- ・ 新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策によりしている、着実なコスト削減に努める

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。